

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月14日

上場会社名 株式会社サハダイヤモンド
 コード番号 9898 URL <http://www.sakha.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 姜 杰
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役IR戦略室室長兼管理部部長 (氏名) 井上 喜明
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-3846-2061

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	1,830	1.2	8	—	0	—	△15	—
25年3月期第2四半期	1,808	24.0	△383	—	△537	—	△550	—

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 37百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △759百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	△0.05	—
25年3月期第2四半期	△1.65	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	4,140	3,093	64.9	8.06
25年3月期	4,129	3,055	64.8	8.03

(参考)自己資本 26年3月期第2四半期 2,685百万円 25年3月期 2,676百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,300	44.5	12	—	10	—	5	—	0.02

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	333,172,137 株	25年3月期	333,172,137 株
26年3月期2Q	24,598 株	25年3月期	23,198 株
26年3月期2Q	333,148,184 株	25年3月期2Q	333,150,467 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項等については、添付資料のP. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策及び日銀の金融緩和等の効果により、円高の是正や株価上昇の兆しも見え、徐々に景気回復の兆しが見えてきました。

このような経済状況のもと、当社グループの属する宝飾業界においては、消費者マインドの改善が期待されております。

当社の海外子会社維真珠宝（上海）有限公司は、平成25年9月1日に中国上海市の南京路新世界百貨店において、イタリアブランドのFRANCO ELLIをメインとした商品を揃え、同社の第9号店として、オープンしております。また、卸販売も積極的に行っておりました。

一方、当社の子会社株式会社バージンダイヤモンドが展開するダイヤモンド事業では、テレビショッピングQVCに出演するとともに、楽天市場を中心としたインターネット販売に加え、本社ビル1Fショールームにおいてブライダルジュエリー等の販売を行っております。

他方、当社の海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド（ロシア）においては、自社研磨による原石加工販売を行っております。

なお、当社の子会社株式会社サハダイヤモンド・トレーディングは、商社機能を持っており、各種商品を扱うことができます。

加えて、第1四半期連結会計期間より、不動産賃貸借事業（本社ビルのテナント貸出等）に進出しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は1,830百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は8百万円（前年同期は営業損失383百万円）、為替差損16百万円の発生等により経常利益は0百万円（前年同期は経常損失537百万円）、四半期純損失15百万円（前年同期は四半期純損失550百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、不動産賃貸借事業（本社ビルのテナント貸出等）に進出いたしました。

これにより、報告セグメントの区分を不動産賃貸借事業として、新たに追加しております。

以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(海外事業)

中国における卸販売は、概ね予想通りに推移しており、売上高は793百万円（前年同期比375.3%増）、セグメント利益は22百万円（前年同期はセグメント利益1百万円）となりました。

(ダイヤモンド事業)

日本におけるダイヤモンド事業の販売は、ショールームでのブライダルジュエリー等の販売が好調に推移したことから、売上高は214百万円（前年同期比4.5%増）、セグメント利益は50百万円（前年同期はセグメント損失26百万円）となりました。

(ダイヤモンド研磨事業)

当社の海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド（ロシア）の売上高は814百万円（前年同期比39.4%減）、セグメント利益は17百万円（前年同期はセグメント損失25百万円）となりました。

(トレーディング事業)

トレーディング事業の売上高は一百万円（前年同期比一%）、セグメント損失は0百万円（前年同期はセグメント損失234百万円）となりました。

(不動産賃貸借事業)

不動産賃貸借事業（本社ビルのテナント貸出等）の売上高は7百万円（前年同期比43.7%減）、セグメント利益は1百万円（前年同期はセグメント損失1百万円）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年5月17日の「平成25年3月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成16年3月期より継続的な純損失を計上し、キャッシュ・フロー面でも営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスが続いております。

当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

ただし、当社グループは、当該事象等を解消するための施策の実施と十分な資金確保により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

当社グループにおいては、当該状況を解消し早期黒字化を図ることが優先課題であり、主に以下に示す施策を積極的に推進しております。

①コストダウン施策の実施及び強化

利益率の改善を図るべく、徹底した商品コストの見直しによる原価の削減、人件費の抑制及びその他経費全般についての見直しを行い収益改善を図ってまいります。

②ダイヤモンド研磨事業の強化

平成23年10月25日付で中国・欧陸之星鑽石（上海）有限公司とダイヤモンド研磨工場の運営に関する契約を締結し、当社の海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド（ロシア）に最先端の技術と設備及びシステムを導入しております。これにより、ダイヤモンド研磨事業の大幅な技術の向上とコストダウンを図り、生産力と販売力を改善いたします。

③海外事業の強化

中国における店舗販売及び卸販売を強化し、収益拡大を目指してまいります。

当社グループといたしましては、主に以上の施策を実施することにより、利益体質への転換と、事業の資金面での安定化に努めており、今後の運転資金も十分に確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	683	365
受取手形及び売掛金	92	472
たな卸資産	1,370	1,348
その他	260	241
貸倒引当金	△23	△17
流動資産合計	2,383	2,409
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,609	1,600
減価償却累計額	△68	△80
建物及び構築物（純額）	1,541	1,519
土地	123	128
その他	132	122
減価償却累計額	△60	△50
その他（純額）	72	71
有形固定資産合計	1,737	1,719
無形固定資産		
その他	2	2
無形固定資産合計	2	2
投資その他の資産		
投資有価証券	0	0
営業保証金	0	0
固定化営業債権	277	268
その他	10	13
貸倒引当金	△282	△273
投資その他の資産合計	5	9
固定資産合計	1,746	1,730
資産合計	4,129	4,140

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	156	84
短期借入金	300	300
未払法人税等	7	3
前受金	545	609
その他	58	42
流動負債合計	1,067	1,039
固定負債		
その他	6	7
固定負債合計	6	7
負債合計	1,074	1,047
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,893	2,140
資本剰余金	1,458	—
利益剰余金	△2,786	410
自己株式	△2	△2
株主資本合計	2,563	2,547
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	113	137
その他の包括利益累計額合計	113	137
少数株主持分	379	407
純資産合計	3,055	3,093
負債純資産合計	4,129	4,140

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	1,808	1,830
売上原価	1,921	1,655
売上総利益又は売上総損失(△)	△113	175
販売費及び一般管理費	270	167
営業利益又は営業損失(△)	△383	8
営業外収益		
受取利息	0	0
貸倒引当金戻入益	0	14
その他	4	1
営業外収益合計	5	17
営業外費用		
支払利息	5	7
為替差損	152	16
その他	1	0
営業外費用合計	159	24
経常利益又は経常損失(△)	△537	0
特別損失		
投資有価証券評価損	3	—
固定資産除却損	—	3
特別損失合計	3	3
税金等調整前四半期純損失(△)	△541	△3
法人税、住民税及び事業税	4	3
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	4	3
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△545	△6
少数株主利益	4	8
四半期純損失(△)	△550	△15

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△545	△6
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	—
為替換算調整勘定	△213	44
その他の包括利益合計	△213	44
四半期包括利益	△759	37
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△744	9
少数株主に係る四半期包括利益	△15	28

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年6月27日開催の第48回定時株主総会における決議に基づき、平成25年7月12日をもって下記のとおり、資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分を行いました。

(1) 資本金の額の減少の内容

①減少する資本金の額

資本金の額3,893,549,880円を1,753,456,068円減少して2,140,093,812円としております。

②減少の方法

会社法第447条第1項の規定に基づき、発行済株式総数を変更することなく、資本金の額を減少し、その他資本剰余金に振り替えております。

(2) 資本準備金の額の減少の内容

①減少する資本準備金の額

資本準備金の額1,458,536,240円を1,458,536,240円減少して0円としております。

②資本準備金の額の減少の方法

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金の額を減少し、その他資本剰余金に振り替えております。

(3) 剰余金の処分の内容

会社法第452条の規定に基づき、上記(1)①及び(2)②の効力が生じた後のその他資本剰余金は、1,753,456,068円と1,458,536,240円の合計3,211,992,308円となりますので、その合計額を繰越利益剰余金に同額増加させ全額欠損補填しております。

これにより、その他資本剰余金、繰越利益剰余金はいずれも0円としております。

なお、剰余金の処分は、資本金及び資本準備金の額の減少効力が生じることを条件といたしました。

①減少する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 3,211,992,308円

②増加する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 3,211,992,308円

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	海外事業	ダイヤモンド事業	ダイヤモンド研磨事業	トレーディング事業	
売上高					
外部顧客への売上高	166	205	1,353	78	1,803
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	14	—	14
計	166	205	1,367	78	1,818
セグメント利益又は損失(△)	1	△26	△29	△234	△289

2. 報告セグメントの合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△289
セグメント間取引消去	8
全社費用(注)	△107
四半期連結損益計算書の営業損失	△388

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	海外事業	ダイヤモンド事業	ダイヤモンド研磨事業	トレーディング事業	不動産賃貸借事業	
売上高						
外部顧客への売上高	793	214	814	—	7	1,830
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	1	1
計	793	214	814	—	9	1,832
セグメント利益又は損失(△)	22	50	17	△0	1	91

2. 報告セグメントの合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	91
セグメント間取引消去	△0
全社費用(注)	83
四半期連結損益計算書の営業利益	8

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、不動産賃貸借事業（本社ビルのテナント貸出等）に進出いたしました。これにより、当社グループの意思決定プロセスを見直し、経営資源の配分の決定及び業績を評価し、報告セグメントの区分を不動産賃貸借事業として、新たに追加しております。

なお、当該組織変更を反映した前第2四半期連結累計期間の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	報告セグメント					合計
	海外事業	ダイヤモンド事業	ダイヤモンド研磨事業	トレーディング事業	不動産賃貸借事業	
売上高						
外部顧客への売上高	166	205	1,344	78	13	1,808
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	14	—	2	17
計	166	205	1,358	78	16	1,825
セグメント利益又は損失(△)	1	△26	△25	△234	△1	△286

報告セグメントの合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△286
セグメント間取引消去	10
全社費用(注)	△107
四半期連結損益計算書の営業損失	△383

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。